

郷土史「ふるさと三輪南」より  
名所旧跡

### 楫立山

三輪中学校の北側にそびえる、貝を立てたような山である。その昔、山の麓を川が流れていて、行き来する舟人が休憩する時、舟を漕ぐ櫂（かい）または楫（かい）を立てたことからその名がついたともいわれている。

その名称に使う「かい」の漢字は、櫂・楫・貝など伝わっているが、確たるものはない。ちなみに、三輪中学校の校歌には、「楫立山」と書かれている。

また、永正（1504～1520）の頃、斎藤道三が北野城を攻めたとき、その軍勢が不利なため、一時この山に勢力を引き上げたため勢引山ともいわれている。



楫立山全景（南東方向から見る）

### オシャゴジ

豊臣秀吉が、石田三成に命じて検地を行った時、その検地に使用した水縄を、埋めた地点をいう。この地区では、春近村溝口字天神の田の中といわれている。

### 六地藏の石幢（念仏地藏）

太郎丸諏訪の六地藏辻に石幢が西向きに立っている。江戸時代中期に上有知街道の四辻に建てられ、六地藏という地名になった。以前は上有知街道沿いにあったが、昭和30年代の土地改良事業により現在の地へ移設された。

いい伝えによると、昔は人通りが少ない所で、追い剥ぎや送り狼がでたため、念仏地藏を祀り、村人や旅人の安全を願って立てたという。

石塔の一つで石幢と呼ばれ、六角または八角の石柱と、仏がん・笠・宝珠などからなっており中世以来、六角地蔵石幢が流行した。これは花崗岩材でつくられ、がん部を六角に作り、それぞれの面に地蔵の合掌、または仏が 10 本の指で表す形の密印をあらわしたものが彫ってある。

建立年月日 享保 7 年 (1722)

材質 砂岩・重制

全高 239cm

呼称 念仏地蔵



六地蔵の石幢[念仏地蔵] (太郎丸諏訪)

## 石 仏

馬頭観音 (太郎丸・茂地など)

近世になり愛馬供養や道中安全・村中安全を願ったりした。昔、農作業の補助手段として牛馬を飼育していた。村人達が供養のために建立した。



馬頭観音 (太郎丸中島)



馬頭観音 (茂地)

## 道しるべ

昔、街道を往来する人々のため、方向や目的地までの距離を示すために立てられたものである。

### (1) 太郎丸北郷地内

現在の岐阜女子大入り口バス停のすぐ前にある。同大学北の頂上にある大日不動の祠へ参拝するための道案内である。



道しるべ (太郎丸北郷)

## (2) 太郎丸中島地内

中島地内の東方にあり、地元の老人によれば南方へは「あくたみ」(芥見)、東方へは「セキ」(関)方面へと判読できたという。現在は風化して読み取ることは不可能である。



道しるべ (太郎丸中島)

## (3) 春近古市場地内

春近には、坊さんの形をした道しるべがある。今は、従前に区長をしていた庭に立っている。もとは、古い関街道の三つ角にあったが、土地改良のため、百日紅の木とともに移された。この木は、枝がひねっていたり、夏に長い間花をつけたりして強いので、厄払いになっているといわれている。この百日紅の木の下にひっそりと立っている。石仏には、「左せきみち」「寛政六甲寅」と彫られている。



道しるべ (春近古市場)

## 猪ノ早太の旧跡

春近古市場南屋敷の県道高富関線沿いのコンクリート塀の中に猪ノ早太の墓がある。毎年11月に地元住民の手で祭礼が行われている。

猪ノ早太は源頼政の部下で、治承4年(1180)宇治川の戦いに負けて宇治平等院の庭で自害した、頼政の首級を背負って、頼政の伯父の領地だった千疋植野に来て蓮華寺に葬った。その後は、この地に居住し亡くなったと伝えられる。地元住民が猪ノ早太の行いを敬い祀った。頭痛、眼病など首から上の病をはじめ、学業成績向上などで、参詣する人もある。道路拡幅のため平成2年に今の場所に移設された。



猪ノ早太旧跡 (春近古市場)

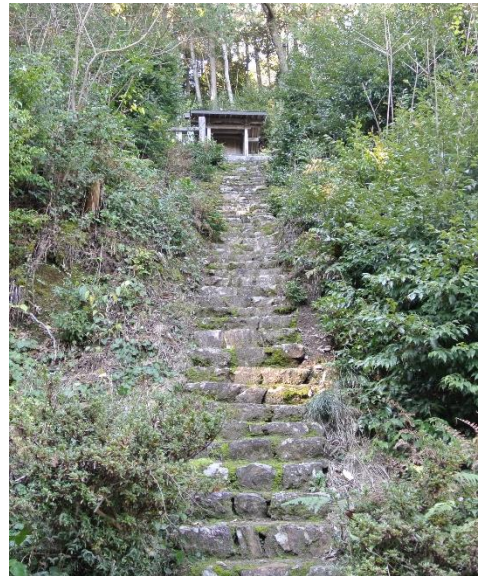
## 太郎丸城

太郎丸にあった城で、別名旭城、首陽城ともいう。初代城主は深尾和泉三郎源重列で、出身地は近江国（滋賀県）である。

深尾家が約 120 年居城としてきたが、慶長 8 年（1603）に焼亡した。

現在、城があったとされる山のふもとは、白山神社がある。この南山麓には深尾家の菩提寺である「龍翔寺」があり、深尾和泉三郎源重列三代の墓がある。

初代	重列	大永 4 年（1524）	67 歳没
2代	重盛	永禄 8 年（1565）	62 歳没
3代	重政	文禄 2 年（1593）	65 歳没
4代	重良	寛永 9 年（1632）	76 歳没
5代	重宗	慶長 8 年（1603）	没



城跡の山麓にある白山神社（太郎丸）



太郎丸城三代の墓（太郎丸）